

琉球王朝時代は外国との交流があったの？

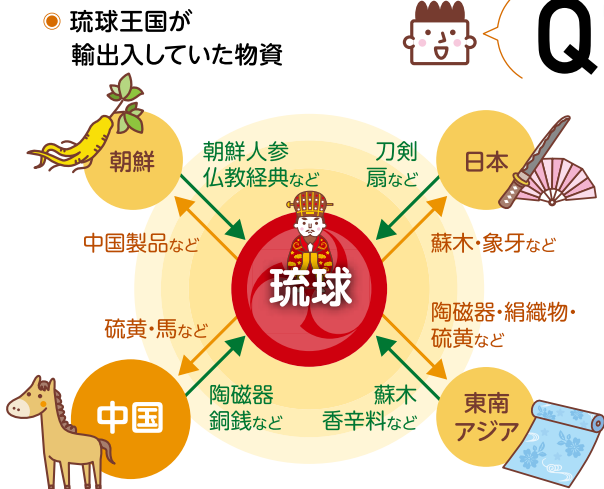
中国や東アジア諸国との貿易によって琉球王国は繁栄したよ！

10～14世紀、東アジアでは各国の商人たちによる交易が盛んに行われていました。なかでも明(中国)は自国を中心とした国際秩序の構築を目指し、朝貢して忠誠を誓う国に対してのみ交易を許しました。これを「冊封体制」といいます。そして1372年、明から皇

帝の使者を乗せた大きな船が三山時代の琉球にやって来ました。中国側の公式記録『明実録』によれば、洪武帝が遣わした使節団が中山王の察度に会い、入貢するように求めました。察度はこの申し入れを直ちに受け入れ、彼の弟である泰期を団長とする使者を派遣。泰期らは明使節団の船に便乗し、公務を担う者として初めて東シナ海を越えました。

こうして冊封体制へと加わった琉球は、優れた中国商品を大量に輸入してそれらを近隣諸国へ輸出すると同時に、中国へ持ち込むための商品を日本や東南アジアから調達するなど、東アジアの中継貿易国として重要な役割を果たしました。記録によれば、明代270年間にアジア各国から行われた進貢は、日本19回、朝鮮30回、シャム(タイ)73回、安南(ベトナム)89回などを抑え、琉球は171回とダントツの一位。明にとって特別な貿易国であったことが分かります。

Q1



交易年表

1350年	察度即位と伝わる
1372年	明の太祖、楊載を遣わし招諭する。中山の察度王これに便して進貢する
1380年	南山王承察度初めて明に進貢する
1383年	北山王伯尼芝初めて明に進貢する
1404年	武寧初めて冊封を受ける
1420年	中山王、シャムと通好
1429年	尚巴志、南山を滅ぼして三山を統一する
1430年	尚巴志、ジャワと通好
1456年	マラッカと通好
1458年	護佐丸・阿麻和利の乱おこる
1458年	万国津梁の鐘を首里城正殿に掛ける
1470年	金丸、王位につき尚円と称し、第二尚氏王統開く
1481年	初めて薩摩へ紅船(慶賀船)を遣わす
1490年	パタゴニアとの交易はじまる
1605年	野国総管、中国(福州)より甘藷をもたらす
1609年	島津の琉球進攻で尚寧降伏。以後、島津の支配下におかれる
1816年	イギリス船、ライラ号・アルセスト号来航
1844年	フランス船艦アルクメヌス号来航
1845年	英国船サマラン号八重山に来航
1853年	ペリ来航。首里城訪問
1854年	ロシアのプチャーチン来航。琉米修好条約に調印
1872年	琉球藩設置
1879年	日本政府、「廃琉置県」を強行。沖縄県を設置

参考：『教養講座 琉球・沖縄史』新城俊昭著

当時の様子がわかる資料はあるの？

**万国津梁の鐘**

1458年、第一尚氏6代・尚泰久王の時代に铸造され首里城正殿にかけられた。琉球王国がアジアを結ぶ架け橋として躍動した時代の気概が表れた銘文が刻まれている。

**進貢船模型**

琉球から中国に進貢物を運んだ船は、長さ40m、幅10mほどの大きさで、約100人が乗り込んだといわれている。船首部の獅子の絵と、舷側に描かれた目玉が特徴。

**進貢船の図**

2～4隻の船団を編成し海を渡った。中国への進貢は2年に一度と決められていたが、初期は頻繁に進貢しており、琉球はアジア諸国のなかでも優遇されていた。

Q2

欧米との交流はいつから？

日本開国を迫ったペリーをはじめ、18世紀末から徐々に増えていくよ

19世紀、産業革命の真つただ中であつたアメリカは、中国貿易の寄港地として日本に注目するようになりまし。日本遠征途中のペリー艦隊が那覇港に入港したのは1853年のことでした。ペリーは琉球王府の抵抗を押し切つて首里城訪問を強行。1854年の二度目の来航の際には、米人の厚遇、物資や燃料の供給などを規定する「琉米修好条約」を取り付けましたが、これはあまり効力がなかつたと言われています。

Q3

琉球を訪れた外国人や交易に関する史跡は残っているの？

異国人の足跡を辿って 幕末の琉球に思いを馳せよう

幕末になると、アメリカ、フランス、イギリスなどの西欧列強が通商を求めて続々と琉球に来航するようになりまし。イギリスの海軍将校バジル・ホールや宣教師ベッテルハイムのように琉球の人々と親交を深めた異国人もいれば、琉球で事件を起こしひんしゆくを買つような者もいました。彼らの滞在していた足跡が、那覇の港町を中心に県内各所に残されているので訪ねてみましょう。



首里城を訪問するペリー提督一行  
ペリー艦隊の公式報告書『日本遠征記』に収められた版画図版。一行が通されたのは首里城北殿で、琉球国王に会うことは叶わなかつた。(那覇市歴史博物館提供)

1 泊外人墓地

バジル・ホールとともに琉球を訪れたイギリス海軍士官や、ボード殺害事件で知られるウィリアム・ボードなど、ペリーと同じ頃に琉球にやってきた異国人たちが眠っています。



墓地内には「ペリリ提督上陸記念碑」が建立されている(那覇市文化財)

住所 那覇市泊3-1-20

2 御物城

琉球大交易時代に外国から持ち込まれる貨物を貯蔵していた場所。15世紀中頃には那覇港にあったといわれており、現在は米軍施設内に位置するため立ち入りは軍の許可が必要です。



住所 那覇市垣花町

3 護国寺

外国接見の公館として使用され、1846年から8年間、キリスト教布教のためやってきた英国人宣教師ベッテルハイムが滞在していました。境内には彼の住居跡碑があります。



住所 那覇市若狭1-25-5

5 ジョン万次郎上陸之碑

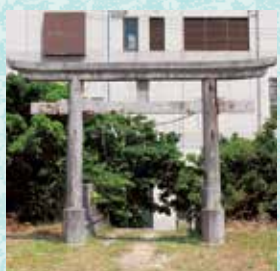
170年以上前に、日本人として初めてアメリカ大陸に上陸したジョン万次郎。24歳の万次郎が帰国の際に上陸した場所に、2018年2月、その足跡を伝える記念碑が建立されました。



住所 糸満市大度西海岸

4 三重城

1554年頃、那覇港の入り口に築かれた城塞。かつてはここから中国へ渡る船を見送りしていたとも伝えられ、ニライカナイに向け航海の無事を祈る人々の信仰の地でもありました。



住所 那覇市西3-2-35

6 八重山 唐人墓

1852年、アメリカの奴隷貿易船「ロバート・バウン号」内で迫害を受け、座礁した石垣島で悲惨な最期を遂げた中国人の慰霊のため、1971年に建立されました。



住所 石垣市新川1625-9

そして現在沖縄県では「沖縄県アジア経済戦略構想」が進められているよ。詳しくは2018年5月号の電子BOOKを見てね!

今再び、沖縄が「万国の津梁」となることを目指して！

